

管内小・中をつなぐ外国語教育推進研修会 授業力ブラッシュアップ研修会（中学校・外国語）

本研修会は、小学校の学びが中学校に円滑に接続されるように校種を越えた外国語教育の改善と、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案や講義・演習を通して、一層の授業改善・充実の促進を目的に行われています。今号は、10月10日に一関市立巖美中学校で行われた研修会について紹介します。

研究テーマ
「読むこと」「書くこと」の資質・能力を育む
統合的な言語活動のあり方

授業の視点
(1) 読む目的に応じた発問の工夫
(2) 単元構想に基づいた言語活動の設定



～プロジェクトチームメンバー～
授業者 一関市立巖美中学校 岩 渕 知 也 教諭
支援員 一関市立花泉中学校 大久保 萌 美 教諭
支援員 一関市立一関小学校 及 川 愛 教諭

授業の様子から

- ◆ 「特定の文型練習が中心の授業」や「教科書本文の音読や意味理解だけで終わる授業」から『必然性のある言語活動』『読むこと』『書くこと』を統合した言語活動を設定し、生徒が目的意識をもって読んだり書いたりする授業への転換を目指す授業でした。単元のゴールであるポスターセッションに向けて、英文を読み要点を理解したうえで、本文等の表現を活用しながら、内容に対する自分の考えをまとめました。
- ◆ 導入では、Small Talkとして、本時の内容に関わるやり取りを行い、自分の1日のタイムスケジュールと本文の内容であるカカオ農園で働く子供たちのタイムスケジュールを比較する素地を作りました。
- ◆ 授業者による様々な発問の工夫が、深い学びの実現につながりました。事実を問う発問のあとに推論的な発問をすることで、生徒が文章中に書かれていないことを推論し、社会的な問題について考えることができました。また、評価的な発問を通して、生徒が文章の内容に対して自分の意見を持ち、既習の表現を用いて書くことにつながりました。

研究協議で話題になったこと

- ◆ 題材をもとに、生徒の思いや考えを伝えられる授業にしていこう。
- ◆ 単元を構想するときには、生徒が行うこと（言語活動）を明確にし、そのために必要な力をどのように身につけるかという視点で考えていくこと。
- ◆ 「教師が何を教えるか」ではなく、「生徒がどのように考え、どう変化していくかを見取るか」という意識のもと授業を行うことで、生徒が当事者意識をもつことができる授業になっていたこと。

講義・協議・演習から学んだこと

- ◆ 小中の情報交換やALTとの連携を通して、小学校と中学校の単元のつながり（既習事項、言語活動等）を考えて単元構想すること。
- ◆ 小学校では、必然性のある言語活動を通して、何度も表現に慣れ親しむことが大切。楽しさと達成感を味わう経験を積むこと。
- ◆ 中学校では、何を評価するのかを明確にし、実際のコミュニケーション場面を設定した評価問題へ改善していく。指導と評価の一体化の充実に向け、評価問題の改善とともに授業もブラッシュアップしていくこと。

<参加者の声（一部抜粋）>

授業改善に向けて

- ・ 目的、状況、場面を明確にし、英語を使うことの必然性をもたせ、バックワードデザインを心がけたい。
- ・ 社会的な問題が題材の場合、発問を吟味し、気持ちを引き出す発問を工夫する。
- ・ 小学校での「気付き」から中学校での「理解」につながるような外国語教育を目指したい。